

Propelling

Issue 4



Propelling は、陽のあたらない船底でその一生を送るプロペラが秘めるメッセージに光をあてて、世界の船そして船とともにある世界を未来へと一歩進める岡山発・日本発のかわらばん

Nakashima People Vol.4

梶尾 義和 ナカシマプロペラ 営業第2部 部長

「僕が一番伸びしろがあったのかな。」

営業の第一線で世界を飛び回る梶尾氏は、自身がナカシマプロペラで刻んできた四半世紀におよぶ時を、冗談まじりにこう振り返る。まったくツテのない海外に送り出された初営業以来、困難な状況にむしる力を得て、文字通りのゼロから語学力と営業ノウハウを掴み取り、いまや、世界各地の代理店を束ねる、ナカシマの海外展開の要を担っている。中国で新設された現地法人の責任者となり、さらなるチャレンジへと歩みを進める梶尾氏に、ナカシマプロペラ、そして中国現地法人、世界の海への思いを聞いた。

Q 世界を舞台に仕事を続ける極意とは？

A 僕にとっては、ナカシマが世界への扉でした。言葉の壁を乗り越えたその先で、いろいろな文化圏で仕事をする中、自分らしくいられる「領域」から放り出されたり、ときには自ら踏み出したり……そうした経験を重ねて、持っている常識が通らない環境でも、自分を見失わずにいられる強さ

というか、しなやかさが養われたように思います。国内でも海外でも、言ってみれば「周りに配慮したマイペース」を貫く力は、長く成果をあげ、サステナブルな事業を築くうえで大切だと感じています。

Q 梶尾さんにとって、プロペラとは？

A 90年にわたる継続と革新と洗練の結晶であるナカシマのプロペラは、僕らにとって「もの」ではないんです。ナカシマの一品受注生産は、蓄積された膨大なデータや最新鋭のテクノロジーに支えられていますが、「その一隻のためのプロペラ」はそれだけでは生まれません。設計、製造から営業まで、すべてのステージで代々受け継がれてきた技と心意気が注ぎ込まれてはじめて形になります。「無事に回り続けてくれますように」という思いを込めて、皆に送り出されるナカシマのプロペラには、いわば魂が宿っている。そうした有形・無形のものに支えられたナカシマ品質のプロペラの性能は、今後、実際の運航時のデータが可視化されるにつれ、さらに明らかになっていくと思います。

ナカシマ品質が
自然に世界標準を
つくっていく未来

梶尾 義和



Q 中国での関係構築で配慮すべき点とは？

A 日本と中国は、漢字や儒教など共有する文化要素も多いだけに、かえって思い込みによる行き違いが起こるリスクがあります。「面子」はその典型的な例のひとつです。この言葉は中国語・日本語に共通していますが、面子をめぐる両国の意識や行動にはかなり違いがあります。

異文化を背景に持つ相手との間では、お互いわかりえない部分もあることを受け入れ、「余白」のようなものを含んで関係を構築していくことも大切だと思います。もちろんこれは、対中国の場合に限ったことではありませんが、文化に基づく「違い」はあなどってはいけなし、必ずしも解消すべきものでもない。むしろそれを大切にする気持ちを持ってほしいですね。

中国に行くたびに感じるのは、とくに若い世代の、いわば「チャイニーズ・ドリーム」を追いかけているようなエネルギーです。それを外来の「型」に押し込めてしまうことなく、中国本来の文化に根差した、中国だからこそその発展、進化の方向性を、この国の若い人たちが見出ししてくれるといいなと思います。

Q いま中国に拠点を立ち上げる意味は？

A ナカシマは過去40年にわたり、中国とさまざまな形で良好な関係を構築してきました。その間、中国の造船業は急成長を遂げ、いまや世界のトップシェアを誇る。

一方ナカシマは、創業100周年に向けて、磨き上げてきた独自の技術・イノベーション力を次のステージに押し上げ、お客様に対し、船のライフ

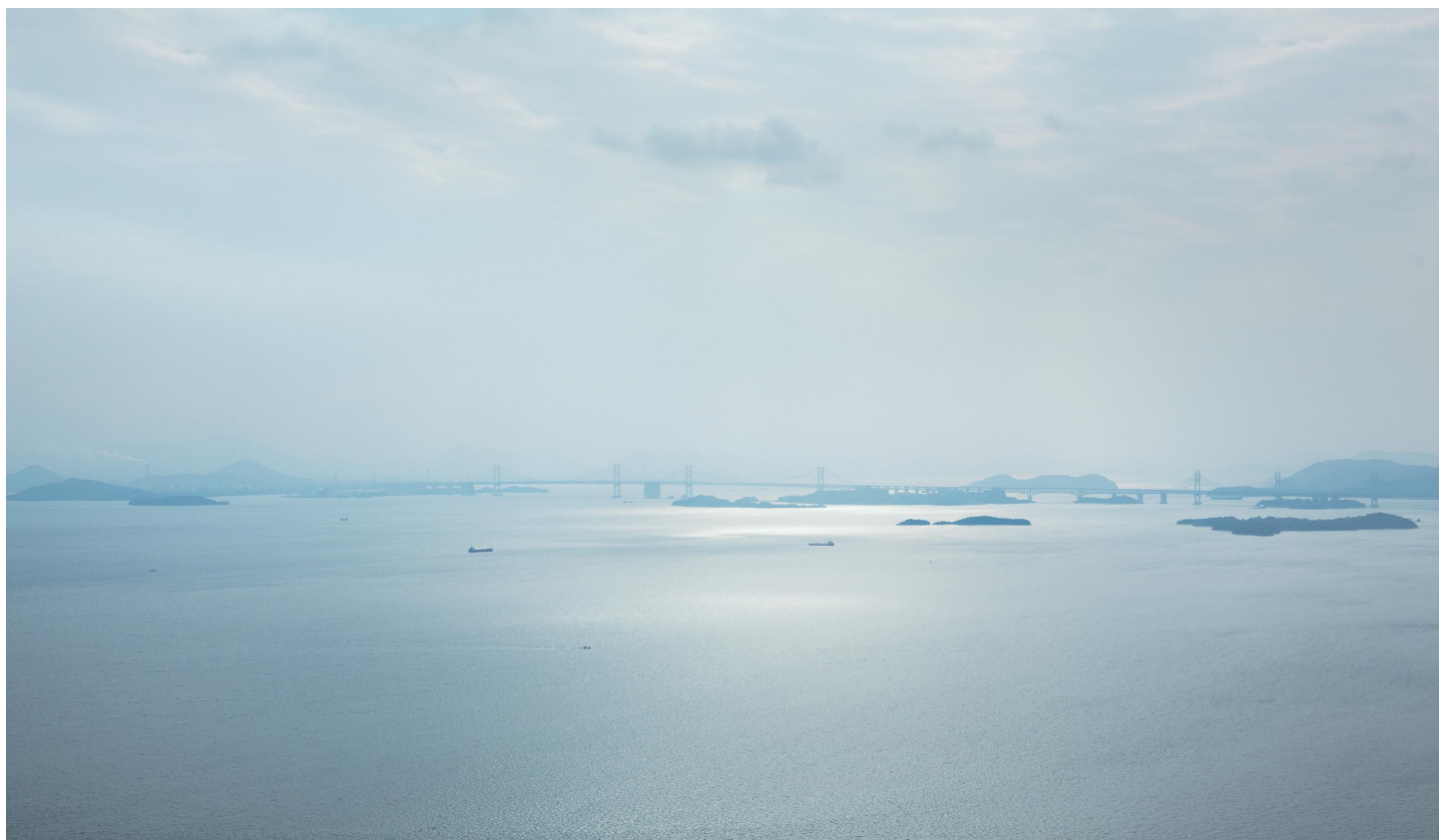
サイクルを通じてその推進性能を最適化するソリューションを提供する企業へと舵をきりました。その中で大きな柱となる、既存船のメンテナンスなどのサービス業務の拠点を、それが最も必要とされる中国・上海という場所に開設することになるわけです。

製品を知り尽くしたメーカーだからこそ可能な、新品さながらの性能をよみがえらせる修理・修復、そして、推進性能のエキスパートとしての、そのときその船に最善の提案……これらナカシマ品質のサービスを、今後はより迅速に、より多くのお客様に届けることができるようになります。

Q 中国拠点を立ち上げたその先に広がる梶尾さんの夢は？

A 上海では、当面は日本人スタッフで対応しつつ、現地採用のエンジニア、マネージング・スタッフの育成を急ぎます。彼らがナカシマの技術を、それを支え磨いてきた心意気とともに吸収してくれること、そして、中国人同士のあうんの呼吸によって、その全てをサービスに生かしてくれることを期待しています。

この上海がモデルケースとなり、ナカシマが100周年を迎える頃には、世界各地の拠点・代理店で、現地のスタッフがナカシマのサービスをそれぞれの国で根付かせ、それによって、ナカシマ品質がサービスの分野でも自然に「世界標準」をつくっていく。そしてその先には、人にも環境にも優しい船が世界の海を縦横に航行し、国境も人と自然の境も越える、地球の豊かな循環の一翼を担っている、そんな未来がナカシマから広がっていくことを夢んでいます。■



ナカシマの美意識

始まりは「和」を重んじる心

現社長・中島基善氏の祖父にあたる中島善一氏は、鉄の鋳物職人として修業を積み、1926 年、独立して妻・松子氏とともに中島鋳造所を創業。このとき親方と競合しないよう、銅合金という素材を選んだ。そして、この人の「和」を重んじる心が、彼をプロペラとの出会いへと導く。

第1号のプロペラが納品されたのは2年後のこと。以来 90 年、受け継がれた善一氏の「匠」の技と心意気は、現在のナカシマのものづくり、そしてあらゆるサービスの「ナカシマ品質」を支えている。

シリーズ寄稿：日本ならではのイノベーション

「ひとり」が生み出す未来

本コラムではこれまで、日本ならではのイノベーションの源泉である、古来からの人と自然の関係性に注目し、またそれが現代日本で失われつつある、と述べてきた。

だが、私たちの文化の根はしなやか且つしたたかで、容易に根絶されうるものでないことも確かだ。例えば、柔らかな早春の雨の中、露置く苔が薫る朝の森、虫の音しげき宵の庭、星冴える夜空の下……四季折々に訪れる永遠のごとき一瞬に「ひとり」佇むとき、それは現代に生きる日本人の中にも、あざやかに息を吹き返す。

宗教学者の山折哲雄氏は、西洋でいう「個」と日本人の「ひとり」というありようは、全く異なる人間観、自然観を背景としたものだと言及し、「ひとり」だからこそ生まれる生活文化の重要性を説く。

「個」が自然と切り分けられ、他者とも切り分けられた不安定な存在であるのに対し、

「ひとり」は自然という大きな有機体の中に包み込まれつつ、変幻自在の厳しさをも受け入れ、その深い懐の中で安らいでいる。

それゆえ、西洋の「個」は、安定と「完全性」の獲得への衝動に根差した創造力を特徴とし、一方、日本古来の「ひとり」は、自然との対話を通じて、その摂理を守り伸ばし生かす創造のエネルギーに満ちている。

両者はいわば性格が違う兄弟だ。ただ、現代文明の中で、「ひとり」のほうはこの日本でさえ息をひそめているように見える。

では、自然とともにある豊かな「ひとり」を取り戻した人間が生み出す新たな文明とは、そして「兄弟」が手を取り合ったときに開ける未来とは……

久方ぶりに陸を離れ、大海原から日本の地を眺めながら、ふと日本ならではの「ひとり」のゆくえに思いを馳せた。■

NAKASHIMA PROPELLER

売り手よし、買い手よし、世界よし

日本の造船業の一大中心地・瀬戸内地方に本社を構えるナカシマプロペラは、船舶用プロペラでトップレベルのシェアを誇る船舶推進機器メーカーです。

漁船用プロペラを造る鋳物工場に始まり、つねに安心・安全・快適をお届けするために、「プロペラにできること」を追求し続けてきたその歴史は、2026年に創業100周年を迎えます。

推進機能の中心を担うプロペラから船全体を見通すと、その最適姿が見えてくる——そんな新しい視点で、ナカシマは船のライフサイクルに寄り添うトータルなサービスを提供し、環境負荷の低減にもつながる低燃費化の実現など、業界を越えて世界に貢献していきます。

■ ナカシマブランドとは？

船の一生に寄り添い、“推進性能”を最適化するスペシャリスト

日本品質を生む設計力・製造力

高性能コンピューター（5000コア大規模プロセッサ）が、100万基にのぼる世界屈指の生産実績の中で蓄積された膨大なデータをもとにはじきだす、設計図。最先端のテクノロジーと熟練した職人技を併せ持つナカシマ独自の製造力が、その設計形状を忠実に再現、高効率・低振動・低騒音の日本品質を提供しています。

一品受注生産 “100の船があれば100通りのプロペラがある”

プロペラは、推進性能の最適化の要。メーカー本位の効率化を排して、一品受注生産にこだわり、一貫生産体制のもと、あらゆる船に対して「その一隻」に最適なプロペラを設計・製造しています。

最新鋭機器の利用を高度化

NC加工では独自のスマートテクノロジーにより、高効率プロペラの複雑な三次元曲面の形状定義も可能に。前・後縁部のエッジ加工など、加工機による翼面加工領域を広げて、特殊な職人技が必要なプロセスを簡素化し、迅速かつバラツキのない製造を実現しています。

究極の滑らかさ

人間の手は、物体表面のなめらかさを判定する理想の検査装置です。最高の訓練を受けたナカシマの職人は、翼表面をゆっくりと撫でるだけで、1/100mmの乱れを感知する「匠の技」を身に付けています。最新のCFD計算でも正確な予測がむずかしい微妙なキャビテーションや鳴音の発生につながる不具合も決して見逃しません。

どんな時も、どんな場所でも

プロペラ損傷時には、世界的ネットワークを活かして、修理エンジニアの派遣など迅速に対応。燃費状態や航路、経年劣化など諸条件を考慮し、エッジカットや省エネ研磨、レトロフィットの提案なども行い、船の「一生」を通じてきめ細かくサポートします。

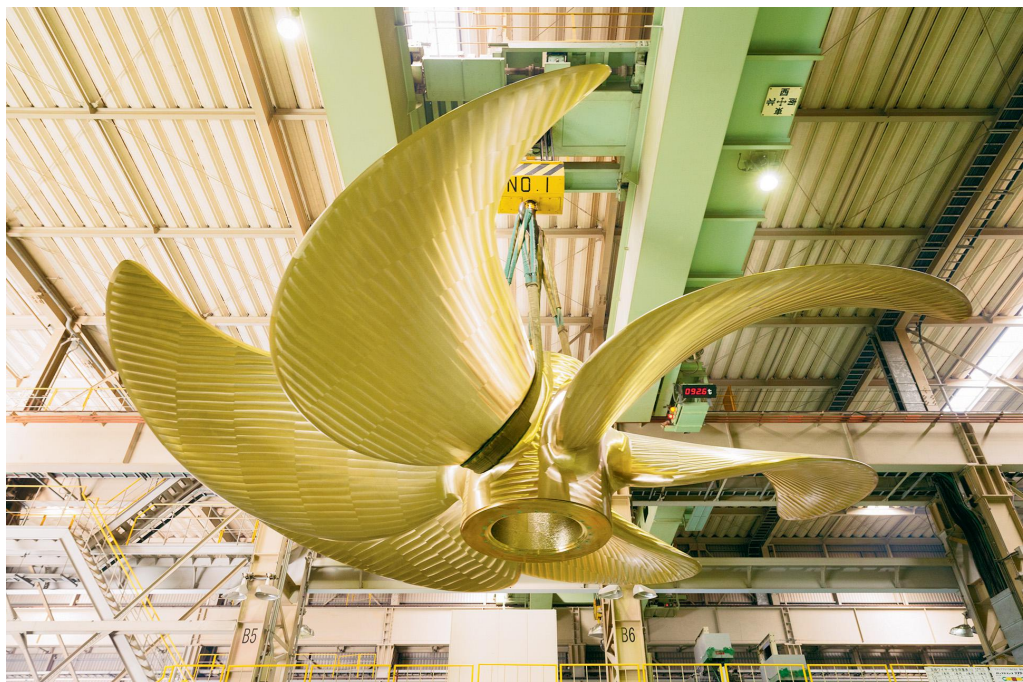
■ サービスについて

船舶用プロペラ分野・推進システム分野におけるFPP、CPP、スラスト、船尾まわり省エネ付加物、新素材（CFRP）プロペラのデザインと製造

損傷プロペラの補修、エッジカット（エッジ修正含む）、省エネ研磨、実運航・就航後の推進機器のサポート、低燃費船を実現する推進性能の最適化など

対応船種：メガコンテナ船、VLCC、VLOC、VLGC、LNG/LPG船、PCC、客船、作業船、内航船、調査船、バトロール船

対応船級：全主要船級（アイスクラス対応可）



■ 展示会情報

INAMARINE [インドネシア]…2017年8月23日～25日

METS TRADE [オランダ]…2017年11月14日～16日

INTERNATIONAL WORKBOAT SHOW [アメリカ]
…2017年11月29日～12月1日

MARINTEC CHINA [中国]…2017年12月5日～8日

ナカシマプロペラ 株式会社

〒709-0625 岡山県岡山市東区上道北方 688-1
086-279-5111

npcwebmaster@nakashima.co.jp

<http://www.nakashima.co.jp>

Japan・Singapore・Vietnam・Philippines・China
Korea・Taiwan・USA・Brazil・Turkey・UK・Namibia・UAE

Propelling 第4号 2017年7月17日

企画・制作 株式会社八百万 I N G カンパニー

写真 太田拓実[P1, P4], 片岡杏子[P2]

Copyright 2017 NAKASHIMA PROPELLER Co., Ltd. All Rights Reserved.